

国際シンポジウム **尖閣問題と** **日中関係のこれから**

日中関係に軋みが生じています。昨年 2012 年は日本と中国が国交を回復してから 40 年の節目でしたが、それを寿ぐ空気にはなりません。原因は「尖閣（中国名：釣魚島）」です。日本政府による国有化決定を受けて、中国では激しい反日デモが発生、その後、経済関係は一挙に冷え込み、さらに中国の漁業監視船が尖閣沖に頻繁に現れています。

そもそも、尖閣とはいかなる問題なのでしょうか。この問題に解決の糸口を見いだすことはできるのでしょうか。

昨年末『尖閣諸島問題』（蒼蒼社）を上梓した共同通信客員論説委員・岡田充氏、胡錦濤政権初期に「対日新思考」を訴えた人民日報評論部主任編集委員・馬立誠氏、さらに、今年の春まで北海道新聞北京支局長として、中国の変化をつぶさに見ていた北海商科大学准教授・佐藤千歳氏をお招きして、シンポジウム「尖閣問題と日中関係のこれから」を開催いたします。

流動化する東アジアのなかで、尖閣問題をどのように捉えればよいのでしょうか。中国が大国化していくなか、日中関係をこれからどのように構築すればよいのでしょうか。

ぜひご参加ください。（事前申し込みは必要ありません）

日時 2013 年 6 月 15 日（土）14 時～18 時（開場 13 時半）

場所 北海道大学 情報教育館 3 階 多目的ホール（札幌市北区北 17 条西 8 丁目）

【講演】 14 時～15 時 30 分

「北京で見た反日デモ - 共振する『中国夢』と草の根ナショナリズム」 北海商科大学准教授 **佐藤千歳**

「中国から見る『釣魚島』（仮題）」 人民日報評論部主任編集委員・北大公共政策大学院客員教授 **馬立誠**

「領土の魔力をいかに解くか - 国家と主権の相対化を」 共同通信社客員論説委員 **岡田充**

【討論】 15 時 45 分～18 時 「**尖閣問題と日中関係のこれから**」

参加者：佐藤千歳、馬立誠、岡田充、鈴木賢（北大高等研センター）、藤野彰（北大東アジアメディア研究センター）

■ 問合せ先 ■

東アジアメディア研究センター 渡邊浩平 TEL 011-706-5283 ☒ koheiw@imc.hokudai.ac.jp